

(様式7)

公共事業継続箇所評価調書

評価確定日(平成16年8月30日)

事業コード	H16-建-継-8			区分	国庫補助・県単独
事業名	国道道路改築事業			部局名	建設交通部
事業種別	二次改築(現道拡幅)			課室班名	道路建設課 国道班(tel)2494
路線名等	一般国道107号			担当課長名	佐藤 紀一
箇所名	本荘市鶴舞~本荘市松街道(本荘道路)			担当者名	主幹(兼)班長 菅原 善昭
総合計画との関連	政策コード	U	政策名	交流・連携と生活を支える交通基盤の整備	
	施策コード	3	施策名	地域間交流・連携を支える交通ネットワークの整備	
	目標コード	2	施策目標名	県管理国道の整備促進	

1. 事業の概要

事業期間	H11~H24(14年)	総事業費	110億円		国庫補助率	5.0/10
事業規模	延長L=2,000m 幅員(構成)W=25.0(4.5-0.50-6.5-2.0-6.5-0.5-4.5)					
事業の立案に至る背景	<p>本路線は、岩手県大船渡市を起点として北上市、横手市を経て秋田県本荘市に至る198kmの幹線道路であり、日本海側と太平洋側を結ぶ産業、経済の交流に重要な役割を果たしている路線である。</p> <p>日本海沿岸東北自動車道の本荘~岩城間が平成15年12月に新直轄方式で整備される区間に指定され、平成19年の秋田国体までには供用開始が見込まれているが、本荘ICとの接続により、高速交通体系へのアクセス強化を図る必要がある。</p> <p>当該区間は、H11交通量が20,508台/日、混雑度1.7、ピーク時旅行速度14.3km/hと慢性的な交通渋滞をまねいている区間でもあり早期に安全かつ円滑な交通の確保が必要である。</p>					
事業目的	<p>中心市街地の活性化(混雑度1.7) 物流の効率化の支援(本荘IC)</p> <p>日本海東北自動車道本荘ICへのアクセス強化</p> <p>安全な生活環境の確保(事故率220件/億台キロ)</p> <p>道路の防災対策・危機管理の充実(第2次緊急輸送道路) 費用便益比 B/C=2.8</p>					
事業費内訳	(単位:千円)					
事業内容		全体	H15年度迄	H16年度	H17年度	H18年度以降
	事業費	11,000,000	1,875,000	500,000	500,000	8,125,000
事業内容	経費内訳					
	工事費	3,286,145	0	0	0	3,286,145
	用補費	6,851,950	1,456,920	471,048	435,031	4,488,951
	その他	861,905	418,080	28,952	64,969	349,904
財源内訳	財源内訳					
	国庫補助	5,500,000	937,500	250,000	250,000	4,062,500
	県債	2,200,000	375,000	100,000	100,000	1,625,000
その他	3,300,000	562,500	150,000	150,000	2,437,500	
事業内容		詳細設計 用地測量 用地補償	用地補償	用地補償	用地補償 改良工 橋梁工 舗装工	
事業推進上の課題	<p>用地買収が難航し、計画より遅れている。</p> <p>JR跨線橋のクリアランスの問題で、本線の縦断勾配が現況よりも急になる。</p>					
上位計画での位置付け	<p>あきた21総合計画における施策「地域間交流・連携を支える交通ネットワークの整備」を支援する事業</p> <p>平成2年3月に都市計画決定済みであり、平成9年12月策定の本荘市都市計画マスタープランと整合している。</p>					
関連プロジェクト等	日本海沿岸東北自動車道(岩城IC~本荘IC間;H19(秋田国体)まで供用予定)					
事業を取り巻く情勢の変化	特になし					
事業効果把握の手法及び効果	指標名	旅行速度の向上		データ等の出典	道路現況調書	
	指標の種類	(成果指標) 業績指標		把握の時期	平成16年7月	
	指標式	旅行速度 km/h				
	目標値 a	30km/h				
	実績値 b	14km/h				
	達成率 b/a	46.7%				

前回評価結果等	選定または継続	改善	見直し	保留または中止・終了
	指摘事項			
	指摘事項への対応			

2. 所管課の自己評価

観 点	評価の内容（特記事項）	評価点
必 要 性	第2次緊急輸送路であり、他に機能が競合する路線は存在しない。 当該区間は「道路構造上の欠陥箇所数」が3箇所もあり、混雑度は1.7で通学路指定区域でもあるため早急な改良が必要である。	10点
緊 急 性	本路線は、県の主要プロジェクトである「地域間交流・連携を支える交通ネットワークの整備」の計画路線であり、市町村合併の支援道路としての機能も有する。	15点
有 効 性	緊急輸送道路の指定路線であり、災害や救急医療施設のアクセス道路としての活用も見込まれ、防災計画上の重要路線である。	28点
効 率 性	事業の費用便益比は1.5以上であり効率性は高い。 ・総費用の現在価値は 66億円 ・総便益の現在価値は 132億円 計画交通量も5,000台以上となっている。	18点
熟 度	事業の進捗は、用地買収に時間を擁しており、遅れている。	10点
判 定	ランク（ ○ ） 「有効性」が特に高い点数となっており、県の「地域間交流・連携を支える交通ネットワークの整備」として位置づけられており、整備後の有効性も高いことから引き続き実施すべきである。	81点
総合評価	<p>継続 改善して継続 見直し 中止 終了</p> <p>事業継続は妥当である</p>	

3. 評価結果の当該事業への反映状況等（対応方針）

当該事業の施工にあたっては、整備計画を踏まえ、着実に推進するとともに引き続きコスト縮減に留意する。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の評価及び対応方針を可とする。

別表7 (20)

公共事業箇所評価基準

評価種別 新規箇所 (継続箇所) 事業コード (H16-建-継-8) 箇所名 (本荘市 出戸町)

適用事業名 道路改築事業(地域間交流・連携促進)

1. 評価内訳

観点	評価項目	細別	評価基準	配点	評価点	摘要
必要性	道路の現状の問題					
	道路構造上の欠陥箇所数 ・車道幅員 < 5.5m ・最小半径 < 100m ・最急勾配 > 5% ・冬期堆雪巾なし	3箇所以上	8	0	2次改築事業については該当しない。	
		2箇所	6			
		1箇所	4			
		0箇所	0			
	道路環境上の欠陥該当項目 ・現道の混雑度 1.0 ・現道の旅行速度 30km/h ・現道の事故率 50件 ・通学路指定で歩道なし ・重大交通事故が発生	5件該当	7	10	2次改築は配点15点 2次改築は配点12点 2次改築は配点10点 2次改築は配点8点 2次改築は配点4点	
		4件該当	6			
		3件該当	(5)			
		2件該当	4			
		1件該当	2			
該当項目なし		0				
計		15	10			
緊急性	道路をとりまく環境等					
	関連事業の有無 ・県の主要プロジェクト ・地域振興プロジェクト ・ほ場整備等の他事業	あり	(5)	5		
		なし	0			
	市町村合併支援道路	位置づけあり	(5)	5		
		位置づけなし	0			
特有の課題の有無 老朽橋、災害危険箇所、 冬期通行不能区間等	あり	(5)	5			
	なし	0				
計		15	15			
有効性	道路の位置づけ					
	緊急輸送路	第1次輸送路	10	8		
		第2次輸送路	(8)			
		第3次輸送路	6			
		指定なし	0			
	県内90分交通体系、全国1日 交通圏等に関連	あり	(10)	10		
		なし	0			
社会変化による事業の必要性	必要性が高い	(10)	10			
	低下傾向 必要性が低い	6 3				
計		30	28			
効率性	事業の投資効果等					
	費用便益比(B/C)	1.5以上	(5)	5	B/C=2.83	
		1.0以上~1.5未満	3			
		1.0未満	0			
	計画交通量	5,000台/日以上	(5)	5		
		1,000台/日以上~5,000台日/未済	3			
		1,000台/日未満	0			
	コスト縮減	あり	(5)	5		
なし		0				
事業中止による影響	既投資額の損失大	5	3	etc 大規模バイパス etc 部分的ミニバイパス etc 現道拡幅		
	既投資額の部分的損失	4				
	既投資額の損失が少ない	(3)				
計		20	18			
熟度	事業の進捗進捗状況					
	事業の進捗(事業費)	8割以上完了	10	5	21.60%	
		5割以上完了	8			
		1割以上完了	(5)			
		1割未満	2			
	用地買収の進捗(面積)	8割以上完了	10	5	28.10%	
		5割以上完了	8			
		1割以上完了	(5)			
		1割未満	2			
		未着手	0			
計		20	10			
合計		100	81			

2. 判定

ランク	判定内容	配点	合計点	摘要
	優先度がかなり高い	80点以上	81	
	優先度が高い	60点以上~80点未満		
	優先度が低い	60点未満		